

黒か青のボールペンで記入してください。

様式例第1号の1

自筆・代筆にかかわらず、押印は不要です。

農地法第3条の規定による許可申請書

記入例

令和 元 年 8 月 8 日
提出する日

大牟田市農業委員会会長 殿

<譲渡人> 土地の所有者
↓
住 所 大牟田市有明町2丁目3番地
フリガナ おお た あきら
氏 名 大 田 明
生年月日 S45年5月5日 職業 会社員

<譲受人> 買う人、借りる人
↓
住 所 大牟田市大字有明23番地
フリガナ む た ゆうこ
氏 名 牟 田 有 子
生年月日 S32年3月3日 職業 農業

下記農地(採草放牧地)について { 所有権
賃借権
使用貸借による権利
その他使用収益権() } を { 移転
設定(期間10年間) }
売買・贈与、賃貸借、使用貸借(無料の貸借)など該当するものを○で囲む

したいので、農地法第3条第1項に規定する許可を申請します。(該当する内容に○を付してください。)

記

1 許可を受けようとする土地の所在等(土地の「登記事項証明書」を添付してください。)

また、譲渡人の住所が登記事項証明書の住所と違う時には、履歴のわかる住民票が必要です。

所在・地番			地目		面積 (㎡)	所有者の氏名又は名称[現所有者が登記簿と異なる場合]	所有権以外の使用収益権が設定されている場合		備考
大字	字	地番	登記簿	現況			権利の種類、内容	権利者の氏名又は名称	
有明	八町	999	田	田	1000		なし	なし	
	↑				↑		↑		
登記事項証明書のとおりに記入してください。						貸し借りなどがあれば記入してください。			

2 権利を設定し、又は移転しようとする契約の内容

契約の種類	売買 贈与 交換 賃貸借 使用貸借 その他 ()
対 価	売買代金.....円 賃借料 (.....円/10a)
権利設定(移転)の時期	令和 年 月 日 ・ (許可後)
契約の期間	令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日 貸し借りの場合期間を記入する
土地の引渡し時期	令和 年 月 日

(記載要領)

- 法人である場合は、住所は主たる事務所の所在地を、氏名は法人の名称及び代表者の氏名をそれぞれ記載し、定款又は寄付行為の写しを添付(独立行政法人及び地方公共団体を除く。)してください。
- 競売、民事調停等による単独行為での権利の設定又は移転である場合は、当該競売、民事調停等を証する書面を添付してください。
- 記の3は、権利を設定又は移転しようとする時期、土地の引渡しを受けようとする時期、契約期間等を記載してください。また、水田裏作の目的に供するための権利を設定しようとする場合は、水田裏作として耕作する期間の始期及び終期並びに当該水田の表作及び裏作の作付に係る事業の概要を併せて記載してください。

農地法第3条の規定による許可申請書（別添）

I 一般申請記載事項

譲受人について事務局の農地台帳を確認のうえ所有地・借受地など

＜農地法第3条第2項第1号関係＞

権利のある農地の面積を記入

1-1 権利を取得しようとする者又はその世帯員等が所有権等を有する農地及び採草放牧地の利用の状況

所有地						所有地以外の土地						
	農地面積(㎡)				採草放牧地面積(㎡)		農地面積(㎡)				採草放牧地面積(㎡)	
		田	畑	樹園地				田	畑	樹園地		
自作	3000	2000	500	500		借入地	1000	500	500			
貸付地	500	500				貸付地						
非耕作地	所在地番		地目		面積㎡	状況理由	所在地番		地目		面積㎡	状況理由
			登記	現況					登記	現況		
	耕作していない農地があったら記入すること					耕作していない理由	耕作していない農地があったら記入すること					耕作していない理由

（記載要領）

- 「自作地」、「貸付地」及び「借入地」には、現に耕作又は養畜の事業に供されているものの面積を記載してください。
なお、「所有地以外の土地」欄の「貸付地」は、農地法第3条第2項第5号の括弧書きに該当する土地です。
- 「非耕作地」には、現に耕作又は養畜の事業に供されていないものについて、筆ごとに面積等を記載するとともに、その状況・理由として、「～であることから条件不利地である」、「賃借人〇〇が〇年間耕作を放棄している」、「～のため〇年間休耕中である」等耕作又は養畜の事業に供することができない旨を詳細に記載してください。

1-2 権利を取得しようとする者又はその世帯員等の機械の所有の状況、農作業に従事する者の数等の状況

(1) 作付(予定)作物、作物別の作付面積 取得する農地を含むすべての農地の作付けについて記入する

	田	畑			樹園地			採草放牧地
作付(予定)作物	水稻	キウリ	トマト		ミカン			
権利取得後の面積(m ²)	3000	500	500		500			

(2) 大農機具又は家畜

数量		種類	トラクター	耕うん機	田植機 (自走式)	コンバイン	噴霧器	トラック		家畜 ()
確保しているもの	所有		30ps 1台		6条 1台		1	軽1台	←現在使用しているものを記入	
	リース					6条 1台				
導入予定のもの	所有								←今後、導入予定のものを記入	
	リース									
(資金繰りについて)										

（記載要領）

- 「大農機具」とは、トラクター、耕うん機、自走式の田植機、コンバイン等です。「家畜」とは、牛、豚、鶏等です。
- 導入予定のものについては、自己資金、金融機関からの借入れ(融資を受けられることが確実なものに限る。)等資金繰りについて記載してください。

(3) 農作業に従事する者 ①は譲受人本人について、②はその家族等で農作業をする者について記入する

①	権利を取得しようとする者が個人である場合には、その者の農作業経験等の状況									
	農作業暦(15)年、過去1年間の従事日数(200)日、農業技術修学暦()年、その他()									
②	世帯員等その他常時雇用している労働力		現在： 1人 年間従事日数： 60日 (農作業経験の状況：)							
			増員予定： 人 年間従事日数： 日 (農作業経験の状況：)							
③	臨時雇用労働力 (年間延人数)		現在： (農作業経験の状況：)							
			増員予定： (農作業経験の状況：)							
④	①～③の者の住所地、拠点となる場所等から権利を設定又は移転しようとする土地までの平均距離又は時間					0.5 km (時間)				

(別添)

＜農地法第3条第2項第4号関係＞（権利を取得しようとする者が個人である場合のみ記載してください。）

2 権利を取得しようとする者又はその世帯員等のその行う耕作又は養畜の事業に必要な農作業への従事状況

（「世帯員等」とは、住居及び生計を一にする親族並びに当該親族の行う耕作又は養畜の事業に従事するその他の2親等内の親族をいいます。）

[該当する期間（実績又は見込み）を「← →」で示してください。]																
				月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
耕作又は養畜の事業に必要な農作業の期間																
世帯員等氏名	年令	譲受人との関係	従事日数	職業	世帯員等が農作業への常時従事する期間（※注）											
牟田 有子	57	譲受人	200	農業												
牟田 明夫	56	配偶者	60	会社員												
※注「農作業への常時従事する期間」とは、その期間、必要な農作業（耕うん、播種、施肥、刈り取り等）にいつでも従事できる状態にあることをいいます。																

＜農地法第3条第2項第5号関係＞

3 農地又は採草放牧地につき所有権以外の権限に基づいて耕作又は養畜の事業を行う者（賃借人等）が、その土地を貸し付け、又は質入れしようとする場合には、以下のうち該当するものに印を付してください。

- ☐ 賃借人等又はその世帯員等の死亡等によりその土地について耕作、採草又は家畜の放牧をすることができないため一時貸し付けようとする場合である。
- ☐ 賃借人等がその土地をその世帯員等に貸し付けようとする場合である。
- ☐ その土地を水田裏作の目的に供するため貸し付けようとする場合である。
- ☐ 農地所有適格法人の常時従事者たる構成員がその土地をその法人に貸し付けようとする場合である。

＜農地法第3条第2項第6号関係＞

4 周辺地域との関係

権利を取得しようとする者又はその世帯員等の権利取得後における耕作又は養畜の事業が、権利を設定し、又は移転しようとする農地又は採草放牧地の周辺の農地又は採草放牧地の農業上の利用に及ぼすことが見込まれる影響を以下に記載してください。

（例えば、集落営農や経営体への集積等の取組への支障、農薬の使用方法的の違いによる耕作又は養畜の事業への支障等について記載してください。）

【例】

- ・今回取得する田はこれまでも水田として利用されており、取得後も同様に水田として利用するため、周辺の農地又は採草放牧地の農業上の利用に影響を及ぼすことはないと思います。
- ・また、農薬の使用方法的については、地域の防除基準に従います。
- ・地域の共同作業に参加し、取水や農薬使用等の地元の決まりを遵守します。